



OSAKA MEN'S CHORUS 
第35回リサイタル

MY DEAR FRIENDS, MY DEAR LIFE

～ 親愛なるものへ～

2009年1月24日(土)

午後2:00開演

いずみホール

主催 OSAKA MEN'S CHORUS

OSAKA MEN'S CHORUS

こあいさつ

本日は OSAKA MEN'S CHORUS 第35回リサイタルにお越しいただき誠にありがとうございます。

第35回リサイタルのテーマは、『MY DEAR FRIENDS, MY DEAR LIFE ~ 親愛なるものへ ~』と致しました。前回のリサイタルでは我々と同世代の男たちへのメッセージを歌いましたが、今回はさらに視野を広げて、友人や家族など私たちと親しい人たちに我々の思いを伝え、またそれらの人々と共に生きる喜びを歌いたいと思います。我々の歌が皆様の幸せなひとときと共有できればと祈っております。では存分にお楽しみ下さい。

2009年1月
OSAKA MEN'S CHORUS



脚長く
女の酒好き
もてる



プログラム

第1ステージ SEA CHANTIES
Sailing! Sailing!
Shenandoah
A-Roving
Lowlands
Stormalong John
Spanish Ladies
指揮 石津佳彰 伴奏 OMCアンサンブル

第2ステージ 「地平線のかなたへ」
谷川俊太郎 詩 木下牧子 作曲
春に
サッカーによせて
卒業式
ネロ
指揮 安井直人 ピアノ伴奏 岡本佐紀子

==INTERMISSION==

第3ステージ Messe Solennelleより
作曲 Albert Duhaupas
Kyrie
Gloria
Sanctus
O Salutaris
Agnus Dei
指揮 石津佳彰

第4ステージ Barbershop Harmony
Almost like Being In Love
Smile
My Cup Runneth Over With Love
Once in a While
Irish Blessing
Lullabye (Goodnight My Angel)
I'm Sitting On Top Of The World
指揮 安井直人

Sailing! Sailing!

Shenandoah

A-Roving

Lowlands

Stormalong John

Spanish Ladies

今回演奏するシーシャンティーについて

毎年OMCはシーシャンティーを演奏プログラムに加えています。

オペレッタの公演などで、プログラムにない場合でも挿入歌という形で組み入れるなど、シーシャンティーにこだわり続けています。ご存知、海の男の歌です。

多くのステージで定番として歌い続けていますが、昨年5月このシーシャンティーを引っ下げて韓国公演まで行ってまいりました。今回は安井直人の新編曲によるShenandoahを加えるなど、新しいスタイルにも挑戦しています。日本で一番シーシャンティーを歌っているOMCのシーシャンティーをお楽しみください。

シーシャンティーとは？

シーシャンティーは、帆船時代の欧米の船乗りの労働歌です。共同作業の時、あるいは夕食後の娯楽の時間に歌われておりました。男の歌そのものですから、男声合唱界では、昔から根強い人気のあるジャンルです。

Sailing! Sailing!

勇壮な船出の歌です。シーシャンティーの中でも最も有名な曲で、世界中の多くの団体が、様々なアレンジで歌っています。私たちOMCは、この曲を団のテーマソングと定め、演奏会のオープニングに必ず歌います。

Shenandoah

美しいメロディーの曲で、シーシャンティーの珠玉の一曲です。ふるさとのシェナンドー河から、心ならずも遠く遠く離れてしまった人たちの、深い悲しみを表しています。

A-Roving

世界的にもポピュラーな曲のようです。OMCが、世界帆船祭りのアトラクションで演奏した際、各国の船乗りが飛び入りで参加し、一緒に歌ってくれた経験があります。浮気心は慣むように、という先輩水夫の教訓話の仕立てにしています。

Lowlands

昔の帆船でも、赤道を何度も横切る地球規模の航海をしていました。船乗りは一度航海に出たら場合によっては何年も故郷へ帰れません。この歌は、夢に出て来た恋人の安否を気づかい、一人涙する歌です。

Stormalong John

船の上では、単純な作業を長々と続ける場合があります。その時は、リーダー（ソコ）が皆を退屈させないように、いろんな話題を歌い、みんな（コーラス）が掛け声で答えます。この曲は、その典型です。歌の内容は、伝説の船長を讃えるものです。

Spanish Ladies

スペインに停泊していた船に帰還命令が出て、ご婦人方に別れを告げ、故国イギリスへ意気揚々と帰って行く様子を綴った歌です。帰国の喜びは、何にもまして大きいものです。最後に思わず「乾杯」と叫びたくなるような、シーシャンティーの第一ステージを締めくくるのにふさわしい歌です。

第2ステージ 男声合唱曲集「地平線のかなたへ」
谷川俊太郎 詩 木下敦子 作曲

合唱曲集「地平線のかなたへ」は1992年に混声（三部、四部）合唱として作られ、のちに女声合唱版（1996）、そして本日演奏する男声合唱版（2004）が作られました。「春に」「サッカーによせて」「二十億光年の孤独」「卒業式」「ネロ-愛された小さな犬」の5曲。

詩はすべて谷川俊太郎さんのもので、不安と希望が入り交じった若者の心と、彼らを優しく見守る詩人の心が美しい日本語で瑞々しく描かれ、読む人の心を暖かく包んでくれます。「二十億光年の孤独」「ネロ」は現代詩の名作として愛読されています。ちなみに、この曲集のタイトル「地平線のかなたへ」は「春に」の中の「地平線のかなたへと歩きつづけたい」という一節から来ています。

本日は「二十億光年の孤独」を除く4曲を演奏いたします。もうとっくに青春は過ぎ去って、気がついたらいつのまにかすっかりおじ（い？）さんになってしまったけれど、青春時代をほろ苦く、甘酸っぱく思い出しつつ、未来ある若者たちへのエールとして、美しい日本語をかみしめながら精一杯歌いたいと思います。「頑張れ、若造!」

終曲の「ネロ」について

谷川俊太郎のみずみずしい感性の輝く作品です。18回の夏を過ごした少年が、たった2回しか夏を過ごすことができなかった飼犬のネロを回想しながら綴られたものです。その夏のいろいろに、様々な夏が思い出されています。詩の全文を紹介します。

春に

サッカーによせて

卒業式

ネロ

ネロ ～愛された小さな犬に～

谷川 俊太郎

ネロ
もうじき又夏がやってくる
お前の舌
おまえの眼
お前の寝姿が
今はっきりと僕の前によみがえる
お前はたった二回程度夏を知っただけだった
僕はもう十八回の夏を知っている
そして今僕は自分のや又自分のでないいろいろの夏を思い出している
メゾンラフィットの夏
淀の夏
ウィリアムスバーグの夏
オランダの夏
そして僕は考える
人間はいつたいもう何回位の夏を知っているのだろうか

ネロ
もうじき又夏がやってくる
しかしそれはお前のいた夏ではない
又別の夏
全く別の夏なのだ
新しい夏がやってくる
そして新しいいろいろのことを僕は知ってゆく
美しいこと みにくいこと 僕を元気づけて くれるようなこと
僕をかなしくするようなこと
そして僕は質問する
いつたい何だろう
いつたい何故だろう
いつたいどうするべきなのだろうか

ネロ
お前は死んだ
誰にも知らないようにひとりて遠くへ行って
お前の声
お前の感觸
お前の気持ちまでもが
今ははっきりと僕の前によみがえる

しかしネロ
もうじき又夏がやってくる
そして
僕はやっぱり歩いてゆくだろう
新しい夏をむかえ 秋をむかえ 冬をむかえ 春をむかえ 更に新しい夏を期待して
すべての新しいことを知るために
そして
すべての僕の質問に自ら答えるために

(「二十億光年の孤独」・昭27)

解説

第3ステージ Messe Solennelleより 作曲 Albert Duhaupas

Kyrie

Gloria

Sanctus

O Salutaris

Agnus Dei

アルベール・デュオバについて

アルベール・デュオバのあまり詳しい記録は残っていません。デュオバは1832年フランス東北部のアラースという町で生まれました。ミサ曲の記録としては楽譜にはこう書かれています。「アラース大聖堂の首席オルガニストであり、聖歌隊隊長であるアルベール・デュオバによって作曲された男声4部合唱曲」。さらに「ローマ最高法院に出席しているオーベルニュー公に捧ぐ」という献呈文がしるされています。

なお、デュオバの作品はこのほかにも、歌曲、ミサ曲、ピアノ曲など18曲がパリ国立図書館に保管されているそうです。日本で演奏されることはまれだと言われています。

今回演奏する「荘厳ミサ曲」の構成

Kyrieで神とキリストに哀れみと慈しみを願ひ、Gloriaで神の栄光を高らかに歌い上げます。続いて今回は演奏しませんが信仰宣言といわれるCredoに移ります。

そして「聖なるかな、主の栄光は天地に満ち」という感謝の讃歌Sanctusへ続きます。ミサはいよいよキリストの身体と血を分け与えられる聖体拝領の準備がされ、司祭の手によって信者にパンが与えられます。このクライマックスに先立ち平和の讃歌 Agnus Dai「神の子羊」が歌われます。

ここで通常のミサ曲は終わりますが、デュオバはAgnus Daiの前にフランスのミサ曲の伝統といわれる聖体讃歌O Salutarisを入れています。

一般のミサ曲ではほとんどがここまでですが、さらにデュオバはこの後2曲を追加して荘厳ミサ曲を締めくくっています。Domine Salvum「主よ救いたまえ」とPie Jesu「慈悲深き主イエスよ」です。Domine Salvumは、これもフランスの教会特有の祈りの言葉で、歌詞は「われらが皇帝ナポレオンを救いたまえ、そしてわれらの願いを聞き入れたまえ」とあります。終曲のPie Jesuはレクイエムの中の一節です。ご存知のようにレクイエムは「死者のための鎮魂曲」と訳されており、例えばフォーレやケルビニのレクイエムにも入っています。

フランスの教会はローマカトリックですが、教会司教に対するローマ教皇の権力の制限、国王の教皇に対する独立性を主張していた経緯もあり、ミサ様式にしても、フランスの独自性が尊重され、ローマ典礼にない聖歌が挿入される例があるようです。今回のこの「荘厳ミサ」もその例に倣っています。

今回このミサ曲を演奏するに際し、楽譜提供、資料提供などで上智大学グリークラブにたいへんお世話になりました。上智大学グリークラブは長年常任指揮者として指導をいただいた故北村協一氏の追悼として現役・OB合同で一昨年、このミサ曲の全曲演奏を行いました。

Almost Like Being In Love

Smile

My Cup Runneth Over With Love

Once In A While

Irish Blessing

Lullabye (Goodnight My Angel)

I'm Sitting On Top Of The World

バーバーショップハーモニーとは？

ラジオやテレビも無く、月曜日の夜のアメリカン・フットボールの試合も無かった19世紀後半に、床屋に集まって男たちが歌ったのが名前の由来の、アメリカで独特の発展をしたコーラスのスタイル。メロディを歌うリード、基音を歌うベース、メロディの上でオブリガードを歌うテナー、ハーモニーを埋めるバリトンからなる無伴奏（アカペラ）の四部合唱。

最初はカルテットで始まりましたが、誰でも歌えるようにコーラスでも歌われるようになり、今ではカルテットに劣らない人気があります。

Almost Like Being In Love

lyrics by Alan Lerner/music by Frederic Loewe

ミュージカル『マイ・フェア・レディ』などでも有名な、ラーナーとロウのコンビが1947年初演のブロードウェイ・ミュージカル『Brigadoon (ブリガドゥーン)』のために作曲しました。100年に一度出現するというスコットランドの伝説の村に迷い込んだ旅人が、村の娘と恋をするロマンティックなストーリー。1954年に映画化され、主演のジーン・ケリーが歌って大ヒットしました。

Smile

lyrics by John Turner & Geoffrey Parsons/music by Charles Chaplin

1939年のユナイト映画『モダンタイムス』の主題曲。この映画のラストシーンは“元氣を出して、道は開ける”というチャップリンの台詞でThe Endなのですが、その後ろでこの‘Smile’のメロディが流れています。作曲はもちろんチャップリン自身。その後、1954年にジョン・ターナーとジョフリー・パーソンズが歌詞をつけ、翌1955年にナット・キング・コールの歌ったレコードが全米10位のヒットとなりました。

My Cup Runneth Over With Love

lyrics by Tom Jones/music by Harvey Schmidt

1966年公開のミュージカル『I do I do (結婚物語)』の挿入歌。熟年の夫婦が二人で過ごした年月を振り返りながらお互いの愛を確かめ合う素数な曲です。“幸せは大切な人がそばにいること”二人の自然な優しさが情感豊かに伝わります。作詞のトム・ジョーンズは私たちがよく知っている1940年生まれの歌手ではなく、1928年生まれの作詞家で、全くの別人です。

Once In A While

lyrics by B. Green/music by M. Edwards

1937年にマイケル・エドワーズとバド・グリーンが発表したスタンダードナンバー。“別れたはずなのに忘れられない、彼女も同じ気持ちでいて欲しい”という切ない想いが美しいメロディで綴られます。1952年のパティ・ペイジの録音がよく知られ、1960年には「チャイム」によってドゥワーフズスタイルで歌われ、リバイバルヒットしました。

Irish Blessing

Traditional

道があなたの目の前に常に開かれ、風が背中を押し、太陽が暖かく照らし、雨が田畑を潤しますように。そしてまた会う日まで、神様があなたをしっかりとそのみ手のうちに置いてくださって平安をくださいますように…アイルランドでよく祈られる“祝福の祈り”です。もともとは人生の旅立ちを目の前にした若者に贈られた言葉が、教会の礼拝でも使われるようになったものです。

Lullabye (Goodnight My Angel)

lyrics & music by Billy Joel

ビリー・ジョエルのアルバム『River of Dreams』(1993)の中の一曲。愛娘を寝かしつけるときに「人は死んだらどうなるの？」という質問をされ、色々悩んだ末に作った歌だと言われています。優しい愛情にあふれた名曲。

I'm Sitting On Top Of The World

lyrics by B.D. DeSylva & Lew Brown/music by Ray Henderson

1928年のミュージカル映画『Singing Fool』の挿入歌。「Swanee」をヒットさせたジョル・ジョルソンが主演、もちろんこの曲も歌っています。“歌っていれば、この世でいやな事なんてありやしない”思わず身体ごとスウィングしてしまうような歌う喜びにあふれた曲です。

出演メンバー紹介

T 1 粟津重光 安藤邦昭 中村文雄 長友伸吾 畠山朗 服部光代
広田恒夫 藤川文義 藤原敏男 村川真人 吉田秀行 米岡泰

T 2 市川邦彦 喜多弘和 黒田武 小林伸雄 斉藤蔚
佐竹広吉 鈴木真 橋本博 安井直人*

B 1 有田仁一** 池田泰延 石津佳彰* 岩間克昭
大月修 佐伯博史 竹内啓祐 田中潤一
福田孝祝 毎野正統 山口征宏 湯本節

B 2 市原肇 岩井爽 宇野健一 大西亘 久保毅 新谷喜久夫
築田幸利 中西純三 藤川雄紀 堀清 宮崎吉史 吉田真一
*指揮者 **キャプテン

伴奏 岡本佐紀子(ピアノ) 鈴木真(アコーディオン)
小倉剛(ハーモニカ) 加藤克雄(ウッドベース)

前回リサイタルからのあゆみ

OMCはいろいろな活動を続けています。前回リサイタル（34回・2007年6月）以来1年半。出演した行事のうち演奏活動を中心にピックアップしました。

- 2007.07.15 JAMCA青森出演
10.06 ウェールズディナークルーズ出演
IBW（インターナショナル・ビジネス・ウェールズ）主催の神戸ディナークルーズで、ウェールズの曲を演奏しました。
- 11.04 混声合唱団「陽（ひかり）」賛助出演
11.28 東本願寺東山浄苑の特別演奏会に賛助出演
- 2008.03.01 ウェールズのタバ出演
05.23 日韓演奏会
OMC初の海外公演。TLT（東京リーダーターフェル）と一緒に、KMC（韓国男声合唱団）は創立50周年という記念すべき演奏会になりました。



高揚（コジャン）市ARAM OPERA HOUSEは演員の盛況。Sea Chantyの出来は最高。気合が入っているが冷静でした。司会がバカ受け。あただけ観客の皆さんが喜んでくれたことも演奏の励みになりました。

合同演奏は160人。終了後の打ち上げ、翌日の山井湖水での歓迎パーティーは韓国側の心からのホスピタリティ溢れる接待。大満足の3日間でした。

- 06.14 パーバーショップフェスティバル出演
関学会館で開かれたパーバーショップ・フェスティバルに参加しました。

09.14 JAMCA滋養演奏会

日本男声合唱協会(JAMCA)の演奏会に参加。びわ湖ホールでの600人の大合唱は初体験でした。関西合同で高田三郎作曲「典礼(聖歌)」、全国合同ステージで多田武彦作曲「草野心平の詩から」を演奏しました。



- 10.13 老人介護施設「陽喜な家」へ訪問演奏
10.30 IBW(インターナショナル・ビジネス・ウェールズ)出張演奏
リッツカールトンホテルのボールルームで行いました。
12.07 大阪南港にて帆船「あこがれ」15周年記念イベント出演

- 2009.01.12 大阪YMCAワイズメンズクラブ出演

メンバー募集

今回の公演をご覧になって「ぜひOMCへ入団したい」というご希望の方はご連絡下さい。

E-mail <jarita@galaxy.ocn.ne.jp> (有田)
OMCホームページ <<http://omc.boy.jp/>>

- ・練習日時 毎週月曜日18時30分～20時45分
毎月第4日曜日13時～16時30分
- ・場所 梅田東学習ルーム
阪急・梅田駅下車。ヤンマービルと百又ビルの間を東へ20m
- ・会費 月3000円（ただし学生は1000円）

OSAKA MEN'S CHORUS

OSAKA MEN'S CHORUS 

OSAKA MEN'S CHORUS